おかやまアーツフェスティバル２０２５

岡山市民の文芸

第57回岡山市民文芸祭受賞作品

ジュニアの部

【詩】

◎岡山市長賞

夢中のあいだ

星野日香（岡大附属中三年）

鉛筆の先が
白い紙をすべっていく

静かな部屋に
シャッシャッと走る音が重なりあう
紙の上をなぞるうちに
手の側面がだんだん黒く染まる

ときおり聞こえる先生の声
「もう少し影を深くしてみよう」
その響きが背中をおしてくれる

隣の席に座る
仲間の鉛筆の音が
トッシャートッ
小さなリズムを刻んでいる

椅子に腰かけると
心がすっと落ちつく
窓からの光が
机上をやわらかく包んでいく

ひとつの線を追いかけるたび
影が少しずつ少しずつ形を結ぶ
すると紙の中には
新しい景色がひらけていく

ここにいると
時間の針がどこかへ消える
気が付けば
外の空は赤むらさきに
染まっているんだ

◇岡山市教育委員会教育長賞

ぼくの大きな木

岡　本　康　誠（岡大附属中三年）

夏休みの課題　「地球に乗ってまわる私」
朝、昼、夕と　影は移動する
なるほど　ぼくは地球と一緒にまわっている
その影は　ぼくが幼い頃　ほぼ毎日通った公園にある　大好きだった大きな木
今はもう　通りがかるくらいで　思い出すことも少なくなっていた
この大きな木の下で　小さなぼくは　小さな緑色のイモムシを見付けた
とてもかわいくて　どうなっていくのかを知りたくて　ぼくはそのイモムシを飼うことにした
イモムシは　色を変え　大きさを変え　形を変え　やがて蝶になって飛び立った
その蝶は　タマゴを生み　また命は繰り返される
あっ　命もぐるぐるまわっているんだ
地球に乗って　ぼくがまわっている
時間が進んでいる
小さかったぼくは　十四歳になった
ぼくは　あんなに大好きだった公園の　あの大きな木を　忘れかけてしまうほど　大きくなった
小さかった頃よりも　その木は　大きくなくなっていた
けれど　ぼくはまたこの木に　気付かせてもらった
地球がまわるということは　時が流れ　命が巡っているということ
ぼくは　地球と　蝶と　時間と　一緒にまわっている
これからのぼくが　どう色を変え　大きさを変え　形を変えていくのか　それは自分次第
時は流れても　やっぱりぼくは　この木が大好きだ　存在は　大きい
近いうちに　また会いに来よう

◇岡山市教育委員会教育長賞

パパのパスタ

入野時継（横井小四年）

今日もぼくは　ぐったりしている
勉強なんて　だいきらいだ
学校で大量に勉強しているのに
なんで家でも宿題をしなきゃいけないのかわからない
妹とも　ちょっとだけけんかしたし
わけのわかんない言い合い

パパは「せっかくの日曜日なんだから　にこにこしていようよ」と言った
でも　家の本は全部読んじゃったし
楽しいこともないし
パパの言うことは　ちょっと「そうだな〜」と思ったけど
つまんないから　またドヨーンとした

「ばんごはんはなに？」って聞いたら
「パスタよ」って　ママが言った
でも　いくらたっても料理をする気配はない
「ん？」って思ってたら
パパが料理をし始めた

おふろからあがったら　パスタはできていた
ベーコンのいいにおいがして　おいしそう
パスタのめんがいつもとちょっとちがう
「いただきまーす」
口に入れたら　めんがもちっとしている
おいしい!!

食べてたら気がついた
今日は「父の日」だった
父の日にパパがお料理するって　ぎゃくじゃない!?　って思った
なんか笑えそうになってきた
家族みんな　にこーっとしてる

パパのパスタ　またつくってほしいなー

【短　歌】

◎岡山市長賞

秋の空雲が流れて風が吹く心の奥に思い出が舞う　　藤　田　健　太（朝日塾中等教育三年）

◇岡山市教育委員会教育長賞

うまくいかんそんな日こそも練習だ帰りの影は誰より長く　　井　上　莉　桜（竜操中一年）

夜空にねどうどうと上がる花火たちまるで星にもね見せてるかのようだ　　市　明　煌（第二藤田小六年）

【俳　句】

◎岡山市長賞

夏休み父と並んで糸を垂れ　　北　島　　楓（竜操中一年）

◇岡山市教育委員会教育長賞

日焼け顔猿の仲間と呼ばれけり　　肥　山　泰　士（竜操中一年）

はかまいりもういちどだけあいたいな　　吉　田　ひより（福田小三年）

【川　柳】

◎岡山市長賞

弟が泳げるようになっていた　　樋　口　滉　太（竜操中一年）

◇岡山市教育委員会教育長賞

なつやすみよりもみんなに会いたいな　　細　川　　咲（第二藤田小六年）

大人びてあの娘気になる新学期　　星　野　日　香（岡大附属中三年）